

## すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	新宿区中落合 3-21-10
施設名	ウズブック保育園中落合

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

形

<テーマの設定理由>

子どもたちは、箱や積み木など様々な形に触れながら、自分で並べたり登ったりし、「どう置こうか」「登れるかな」と考えながら試行錯誤して遊ぶ姿が見られます。また、形の違いや組み合わせによる変化に気づき、体を動かしながらダイナミックに遊ぶことを楽しんでいます。さらに、友達の動きを真似しながら関わりを広げていく様子も見られることから、これらの興味関心に基づき「形」をテーマに設定しました。

### 2. 活動スケジュール

1月～3月

- ・大型積み木のある環境で、一人ひとりの遊び方を観察する
- ・前回の姿を踏まえ、興味・関心に応じて3つのグループに分け、少人数での遊びの様子を観察する
- ・箱積み木の色や材質に似た大きさの積み木を用意し、遊びのつながりをもたせる
- ・箱積み木の色や形に合わせて切った画用紙を用い、形や色に着目した遊びを取り入れる

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 〈素材・道具〉

- ・ 大型積み木
- ・ 中型・小型の積み木
- ・ 三角形・四角形に切った画用紙（形や色は既存の箱積み木に対応）

#### 〈環境設定〉

- ・ 十分に広いスペースを確保する
- ・ 大型積み木は手に取りやすい位置に配置する
- ・ 同じ空間内で積み木遊びができるようにする
- ・ サーキットの着地地点には安全のためマットを敷く
- ・ 積み木（各サイズ）は取りやすい位置にまとめて配置する
- ・ 床には大きめの三角形・四角形の画用紙を均等に並べる
- ・ 活動の途中で、机の上に小さめの三角形・四角形の画用紙を追加する

#### 4. 探究活動の実践

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

〈活動内容〉

- ・積み木を縦に重ねる。横に繋げる。
  - ・三角の積み木（三角柱）の、頂点を下にして側面に乗り揺れを楽しむ。
  - ・縦に重ねた積み木がグラグラ揺れたり倒れたりすることに楽しさを感じる。
  - ・お家をイメージして作る。友達と一緒に作る。
  - ・横に繋げた積み木の上を渡り歩く。上からジャンプをする。
- ・グループ1は、言葉で相談しながらルールやイメージを共有し、協力して遊びを発展させていた。
- ・グループ2は、徐々に友達と関わりながら見立て遊びを楽しみ、イメージの違いも含めて関わりが広がっていた。
- ・グループ3は、目的を持った構成や身体表現、模倣を通して遊びが広がり、協力する姿も見られた。
- ・友達と声を掛け合いながら家づくりを楽しむ姿が見られた。・これまでの経験を活かし、大型積み木での遊びを普通サイズの積み木でも再現する姿があった。・積み方を工夫したり、並べ方を試したりと、それぞれの興味に応じた遊びの広がりが見られた。
- ・平面の形の活動では子どもたちは好きな色の画用紙を選び、自分なりのイメージを持って遊びを展開していた。丸めてのりまきを作ったり、テープを使って立体的な作品を作ったり、折ることで形の変化を楽しむなど、それぞれが工夫しながら表現していた。また、できたものや気づきを言葉で伝えたり、保育者や友達の作り方を真似したりする姿も見られた。さらに、図形を集めて仕分けするなど、集中して遊びに取り組む様子も見られた。

## <活動の内容>

・子どもたちはそれぞれのグループで、友達と関わりながら積み木遊びを発展させていた。サーキットづくりでは声を掛け合いながら協力して構成しつつ、ジャンプや休憩所づくりなど個々の興味に応じた楽しみ方を深めていた。また、初めは個々に異なる遊びをしていた子どもたちも、次第に互いの遊びに興味を持ち、行き来しながら関わりを広げていた。さらに、家づくりや身体表現などの遊びも見られ、そこから新たな遊び（プールづくり）へと発展するなど、子ども同士のやりとりの中で遊びが豊かに展開していた。

・子どもたちはグループごとに関わりながら積み木遊びを展開し、それぞれの興味やイメージに応じて遊びを深めていた。サーキットづくりでは協力して構成しつつ、ジャンプや休憩所づくりなど個々の楽しみ方が見られた。初めはそれぞれ異なる遊びをしていた子どもたちも、次第に互いの遊びに関心を持ち、関わり合いながら遊びを共有していった。また、家づくりや見立て、身体表現など多様な遊びが展開され、そこから新たな遊びへと発展する姿が見られた。

・積み木の数を十分に確保するため、2グループに分けて活動を行った。高月齢のグループは、友達と関わりながら大型積み木で家づくりを楽しみ、協同的な遊びが多く見られた。低月齢のグループは、普通サイズの積み木を使い、一人で集中して遊ぶ姿が多く、遊び方や関わり方に違いが見られた。

・床に大きめの三角や四角の画用紙を満遍なく配置したところ、繋げる姿があったが、他児に作ったものを踏まれ作った形がずれることがあったので、繋げたものを保育者がテープで貼り付けずれないようにした。

・形を合わせるのではなく丸めたり折ったりの遊び方で初めから遊ぶ子もいたので、一度だけ保育者が三角と三角を合わせて蝶の形を作って形を合わせることを誘いどうなるのか様子を見た。

・しばらくしてから机に小さな三角や四角の画用紙を配置し、子どもの姿を観察した。

## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・並べるだけでなく見立てや色分けなど、発達や興味に応じた多様な遊び方が見られ、友達の遊びを真似する姿もあった。
- ・積む・崩すなど楽しみ方の違いや使う素材の偏りから、対立や取り合いも見られた。
- ・今後は興味の方向ごとにグループを分け、遊びの変化を観察していきたい。
- ・前回の経験を活かし、遊びのイメージを持って取り組む子が多かった。
- ・少人数での活動により情報量が抑えられ、会話や関わりが深まった。
- ・構成遊びだけでなく、見立てや表現など想像力を広げて遊ぶ姿も見られた。
- ・大型積み木活動では、回を重ねるごとに新たな発見があり、子どもたちの発想力の豊かさを感じた。子どもの発達や性格によって遊び方は様々だったが、これまでの経験を活かし、同じイメージ（お城や消防車など）を再現する姿が見られた。普通サイズの積み木では一人で集中する姿が多く、大型積み木との違い（使う身体の部位や完成までの過程）が見られた。大型積み木の上に小さな積み木を工夫して積む姿があり、今後は平面図形なども取り入れて遊びの広がりを見ていきたい。
- ・箱積み木のように並べたり構成したりする遊びが広がらなかった要因として、活動間の間隔によりイメージが浮かびにくかったことや、画用紙の配置が分散的で集中しにくい環境であったこと、子どもにとって紙は折る・丸めるといった経験が優位であったこと、また図形構成自体の難しさが考えられる。今後は、日常的に図形に触れる機会を増やし環境にも取り入れることや、遊びの連続性を意識して記憶が新しいうちに活動をつなげていこうと感じた。